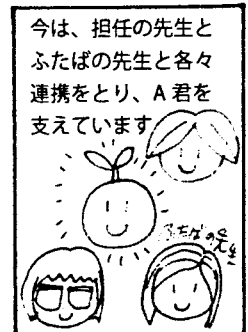
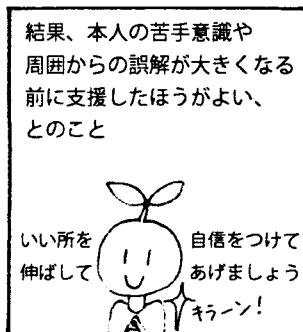
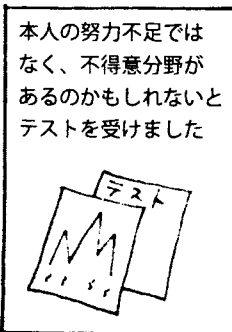
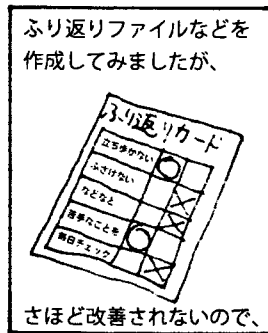
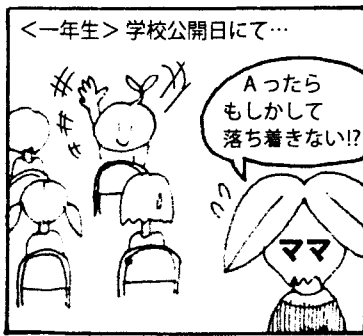


こんにちは!! リーブスです。気がつけば三学期も後半で、卒業・進級も間近に迫りましたね。この1年、子どもたちの成長に目を細めたり、事件(?)に目をむいたり……。ネタにことかかない日々でした。五小では特別支援教室も始動しました。週に一回、緑野小から巡回指導の先生が通ってくださっています。そして、支援教室用に改装工事が予定されています。新年度には、緑野小でも五小でも仲間が増えるのが楽しみです。新しい仲間がどんなふうにとりつくなのか、その一例をご紹介します。

ふたばに入るまで

ふたば学級にたどりつくまで…。それは問題を抱える子どもと、そのママ、担任の先生の戸惑いと発見の連続の日々なのです。さて、今回のA君は…



A君に支援が必要かどうかの判断は、誰か一人の判断ではなく担任の先生、スクールカウンセラーの先生、ふたばの先生、教育委員会、そして保護者、様々な角度でA君を見て決めていくんじゃ。このあとも、A君は複数の見守りの中で、注意深く対応してもらえるんじゃな。



支援って？



A君のママも言っておるが、実際その立場にならんと、特別支援教室の支援がどんなものか？いったい何を支援しているか？分からん人も多いじゃろう。今回は、その支援のひとつ“ソーシャルスキルトレーニング”を紹介しよう。



ソーシャルスキルトレーニングとは？

「お友達と話していたが、何を話したかったのか分からなくなる。何をどう伝えていいか分からない。」
「約束したことを、忘れてしまう」「人が話していても、お構いなしに話し出す」
「自分が好きな話をいっぱい聞いて欲しい。話し出すととまらない。」
「人の輪や会話に入るタイミングが分からない。または、入るのが苦手。」 など、、、
コミュニケーションに苦手な部分があると、こういった場面に出くわしがちです。
また、そういった状況に困っているけどどうしていいか分からない・・・
または、困った状況であることに気づけない・・・

理由は、

- ・物事を連想して考えるのが苦手。(前後の話と結びつけて聞くこと・話すことが難しい。)
- ・相手の表情を読み取るのが苦手。(相手が困っている、また、あまり興味がないことに気づけない)
- ・他に興味が向くと、何をしていたか忘れてしまう。約束を忘れてしまう。
などなど・・・その特性によって様々・・・

(※これはほんの一例です。他にも個々でその特性は違います。)

ソーシャルスキルトレーニングは、そんな困った場面でどういった対応をするのが適切かを教えてくれるのです。「そんなの、普通に生きてたって学べるでしょ～？」と思うかも知れませんが・・・
本人に悪気はなく、やる気がない訳でもありません。むしろ一生懸命・・・
でも、脳の中枢神経になんらかの原因が生じ、通常の経験だけでは“何がどうしてそうなるのか？”を読み取ることが困難となり、本当にどうして良いか分からないのです。
その困難を少しでも取り除く方法のひとつとしてソーシャルスキルトレーニングがあります！！
小集団活動でのお友達との経験、他者から見た自分、自分から見た自分などを、落ち着いた空間と分かりやすいプログラムでゆっくり学び、考え、知っていくこと、また、経験していくことで、今の人間関係を円滑にするとともに、将来大人になった時に困らないための支援につながるのです。

なぜ、落ち着いた空間が必要か？この子たちはその特性がゆえに五感が敏感な子が多いのじゃ。例えば聴覚過敏があると、風の音がうるさく感じる子もいる・・・本当に様々じゃ・・・
この子たちにとって落ち着いた空間は、学ぶためにも大切なことなのじゃ。



編集後記

今回のLeavesはいかがでしたか？特別支援教室は、学習や生活面で困っている子どものための教室です。A君のママは、テストを受け自分の子供に苦手な分野だけでなく、飛びぬけて得意な分野があることを初めて知ったそうです。そして今振り返ると「担任の先生からはずいぶん前にシグナルを出していただいていたけれど、気づくまでにずいぶん時間がかかったように思う。一番大変だったのは担任の先生だったのかも？もっと早く気づく方法はなかったのかな？」と思うそうです。今は、苦手なことは何か、克服するにはどんな手段があるのか？に取り組んでいます。良いところを伸ばし、苦手なところを克服することで、社会に出た時に困らない方法を身につけていくって、大切なことですよ(^ ^)

～ 最後まで読んでくださり ありがとうございます ～